

議会だより

2024 秋 No.112

発行：初山別村議会

編集：議会報発行特別委員会

令和6年11月発行

提出議案と審議結果

議案番号	案 件 名	結果
同意第2号	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	同意
報告第4号	令和5年度北海道初山別村健全化判断比率の報告について	報告済
報告第5号	株式会社しょさんべつ振興公社の経営状況について	報告済
議案第30号	フルタイム会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第31号	初山別村立診療所特別会計条例の制定について	可決
議案第32号	初山別村立診療所に勤務する常勤医師の給与に関する条例の制定について	可決
議案第33号	財産の取得の変更について	可決
議案第34号	令和6年度一般会計補正予算（第2号）	可決
議案第35号	令和6年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第36号	令和6年度介護保険特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第37号	令和6年度簡易水道事業会計補正予算（第1号）	可決
議案第38号	令和6年度農業集落排水事業等会計補正予算（第1号）	可決
認定第1号	令和5年度北海道初山別村各会計歳入歳出決算等の認定について	認定

9月 定例会

9月議会定例会は、9月11日・12日の2日間にわたり開かれました。村長提出の議案は、令和5年度一般会計及び各会計の決算認定をはじめ、教育委員会委員の任命同意、条例の制定、改正、一般会計及び特別会計の補正予算など13件で、いずれも審議の結果、原案どおり認定・同意・可決されました。

一般質問では、斉藤議員、三谷議員が村政の執行について、村長の考えをただしました。また、議員から提出された意見書案2件を可決し、関係行政庁へ送付しました。

委員の同意

■教育委員会委員

初山別村字初山別
菊井 真 証 氏
(再任)

報告

■令和5年度健全化判断
比率等の報告

↓実質公債費率 7.2%
前年度比

0.5ポイント増
■株式会社しょさんべつ
振興公社の経営状況につ
いて

↓令和6年度予算額
1億6100万0000円
令和5年度決算額
1億6392万4485円

条例

■フルタイム会計年度任
用職員の給与等に関する
条例の一部を改正する条
例

↓北海道最低賃金の改定
に伴う改正。

■初山別村立診療所特別
会計条例の制定

↓村立診療所の会計を特
別会計とするため新たに
制定。

■初山別村立診療所に勤
務する常勤医師の給与に
関する条例の制定

↓村立診療所に勤務する
常勤医師の給与を定める
ため新たに制定。

■鎌田議員

Q 医師の引継がスムーズ
にいくよう願う。

A 宇野副村長

1月からの体制の確認
含め打ち合わせし、村民
の方には不安を感じない
医療体制を構築していき
たい。

■三谷議員

新しくこられる医師は
診療所長と医師どちらか。

A 小川住民課長
診療所長となる。

その他

■財産の取得の変更に
ついて

↓公園遊具(チャイルド
ウッド・FRP製ベンチ・
ウッドクライム) 取得価
格を変更

取得価格1787万5
千円から1808万4千

円に。

補正予算

■一般会計

↓6279万6千円を追
加し、26億9183万1
千円に。

【林業振興費】

■加藤議員

森林環境譲与税を充
当し新しく民有林造林事業
補助にした理由は。

A 寺崎経済課長

森林環境譲与税を充
当するために、従来行つて
いた事業を新規事業とし
て行うため。

■国民健康保険特別会計

↓211千円を追加し、
2億1721万1千円に。

■介護保険特別会計

↓1504万2千円を追
加し、2億0634万2
千円に。

■簡易水道事業会計

↓1192万7千円を追
加し、1億9467万9
千円に。

簡易水道事業費用

↓1192万7千円を追
加し、1億9590万7
千円に。

■農業集落排水事業等会
計

農業集落排水事業等収益
↓153万7千円を追
加し、1億5268万8千
円に。

農業集落排水事業等費用
↓1464千円を追加し、
1億7705万5千円に。

意見書案

■安全・安心の医療・介
護実現のため人員増と処
遇改善を求める意見書

提出者 三谷 博子 議員
賛成者 加藤 一裕 議員
賛成者 長谷川幸廣 議員



提出者 三谷議員

■国土強靱化に資する社
会資本整備等に関する意
見書

提出者 加藤 一裕 議員
賛成者 長谷川幸廣 議員
賛成者 三谷 博子 議員



提出者 加藤議員

次の定例会は
12月です

お気軽に傍聴に
お越しください。





齊藤 勝博 議員

Q 空き家解体への費用助成は

A 様々な視点から十分検討し
新たな制度、対策を講じたい

空き家の解体に伴う費用の助成について

議員

【議員】 昨今、少子高齢化や人口減少により、全国的に空き家が増加しており、一つの社会問題となつていきます。

本村においても空き家が多く存在しておりますが、村民の中には老後を見据え、医療や福祉環境の整った都市部への移住や親族のいる地域へ移住するケースも多く見られ、今後、更に空き家の増加が想定されます。空き家が空き家としてそのまま残ってしまう理由は、所有者の様々な事情も考えられますが、その一つの要因として、解体に伴う費用が高額な事、また近年では家屋の解体に伴う費用が更に高騰している事が背景にはあります。

村内には今後、危険家屋となり得る様な、老朽化の進んだ空き家も存在する事から、安全性・防犯性・衛生環境・景観の阻害等の観点からも、村民の生活環境を守る事が重要とも考えます。村で解体に伴う費用に

対し助成をし、解体処分しやすい様な対策を講じてはと考えますので、村長の考えを伺います。

村長

【村長】 現在、村で実施している環境整備促進事業につきましては、平成22年度から、住宅の改修、空き家の除去、空き家の流動化などを通して、快適で良好な住環境の整備並びに景観の向上を図ることを目的として、助成制度を開始しているところであり、以降3年ごとに制度見直し、改定を行いながら、現在に至っているところです。

【議員】 これまでの14年間では、この助成制度を活用し、住宅改修工事75件2,559万円、住宅除去工事25件746万7,579円、屋外排水設備工事12件69万円、空き家住宅購入等14件469万円など、延126件3,843万7,579円と、費用の方に活用されてきているところです。平成22年度の制度開始当初においては、居住の用に供さなくなった老朽住宅の除去工事について、村内建設業者が行うことを条件として、その除去に

伴う工事費用が100万円以上のものについて、廃棄物処分施設における受入費用の額とし、50万円を限度に助成を行っていたところでした。平成25年度からは、同条件で助成額を30万円の上限に改定し実施しているところです。その後、平成28年度からの事業実施にあたり見直しを図ったときに、現在の除去費用100万円以上で

「居住用住宅の新築に伴う旧居住用住宅の解体」を助成要件とし、30万円を上限として事業実施してきているところですが、住宅除去工事については、平成28年度以降この助成制度を活用した対象事業となる住宅除去工事の実施はありませんでした。

【議員】 現在、物価高騰等により、住宅の除去費用についても高騰している状況にあると察するところであり、この除去費用高騰により住宅の除去をためらう住民の方、あるいはその家族の方もおられることと推察いたします。また、令和4年11月に実施した「初山別村住生活基本計画」の住民アンケート調査において、

「助成制度があれば除却を検討したい」という回答が31.8%あったところです。この様なことから、次期住環境整備助成事業の制度設計について、これらの結果も参考としながら総合的、かつ様々な視点から十分検討を深めたうえで、新たな制度、対策を講じてまいりたいと考えますので、ご理解を願います。ついて調査・検討してまいりたいと考えているところであります。

一問一答

議員

現在の空き家数は。

経済課長

45戸となっております。

議員

今後の空き家対策の考えは。

議員

【議員】 費用助成、空き家バンクのあり方含め、住環境問題とし検討したい。

議員

【議員】 今回の問題は今後表面化してくると考えられる。安心、安全で生活できる街づくりに努めていただきたい。

一般質問



三谷 博子 議員

Q しょさまる号 利用しやすい対策が必要では

A 安定した運営を行う体制へ 検討、対策を講じたい

しょさまる号の運行体制について

議員

介護保険制度の改革がきっかけとなり、フレイルを予防し、地域に住み続ける環境作りを行うために生まれた高齢者向けのデマンド型移動サービス「しょさまる号」。村が実施主体となり、トヨタ・モビリティ基金の助成を受け、ボランティアドライバー・ボランティア団体・郵便局・村の職員を巻き込んだ官民一体の取組みは、都度浮かび上がる課題に対し、柔軟にサービス方針を転換し、体制を整えながら、現在は社会福祉協議会が村から運営を委託されている。利用者の満足度も高く、高齢化に歯止めがかけられない村にとって欠かせない移動サービスになっている。今後の課題として、利用者側から①土日運行約できる体制②土日運行③運行時間の拡大④羽幌までの運行、運行者側から①担い手不足②車両不足③入替に答える為④があげられている。利用者からの要望の全てを一度に叶えるのは難しいことは理

解しているが実証運行時と比べ通院が大幅に増加している実情を踏まえ何らかの対策が必要と思うが村長の考えを伺う。

村長

この地域公共交通対策事業「しょさまる号」の運行については、平成30年度からの実証運行を開始し、令和3年度から社会福祉協議会に交通空白地有償運送として業務委託し、村民の移動手段一つとして活用されており、主な利用目的として3か年平均では、催し物202回、診療所137回、理・美容院47回、コロナワクチン接種もあります。予防接種が36回となっているところ。又、令和5年度の活用状況の分析としては、稼働可能日数360日中稼働実績182日、稼働率は50.5%で、1日平均2.5人の利用状況となっています。延462人の方に活用され、年齢階層では85才以上の活用率が高くなっている状況下であります。これまで受託事業者である社会福祉協議会と、都度浮かび上がる課題を共有し、協

議、検討を進め、出来ることから改善等を図っているところでもあります。運行上の一番の課題となるのは、やはり人員の確保であり、令和3年度運行スタート当初は、職員1名を配置したところですが、早期に退職され、その後、十分な人材確保ができておらず、現在に至っているところです。そのような状況下、社会福祉協議会においても、限られた職員・人員体制の中で、予約専用ダイヤルを設けるなど工夫しながら、運行業務に対応していただいているところですが、業務を兼務する状況下では利用者のニーズに対応しきれないケースも増えてきております。この事業実施にあたり重要なことは、核となる人員の確保と考えているところです。また、当初のボランティアドライバーとして登録されている方については、仕事の都合や用事、高齢により辞退する事が多々あり、あらためてドライバー登録するかの意思確認も必要であると考えています。進む高齢化社会において、極めて重要な施策です。利用者全ての要望を叶

えるのは難しいことと考えますが、将来展望に立ちながら利用しやすく安定した運営ができるような体制づくりについて、様々な視点から更に検討・協議を深め、対策を講じてまいりたいと考えますので、ご理解をお願いします。

一問一答

議員

医療機関で受診するための予約や運行に対して、利用できない時間帯があることについての考えは。

村長

医療機関への足の確保は極めて重要。体制を整え、利用に使える交通システムである必要がある。

議員

現状では運転免許返納が進みにくい状態ではないのでは。

村長

移動手段の確保は重要、高齢になってもやっていける仕組みづくりを目指したい。

議員

交通弱者を社会が責任をもって解決するのは大事。一日も早く解決を。

決算審査 特別委員会

決算審査特別委員会は、9月11、12日にわたり、令和5年度各会計決算を審議し、全ての会計を全員賛成で認定しました。



長谷川 委員長

【A】小川住民課長
3,750枚の交付で1,244枚の使用である。

【Q】高場委員
温泉に行きたくても行けない方への配慮は。

【A】小川住民課長
岬センター巡回バス、また本人がいれば他の人も利用できるので活用願う。
農林水産業費

○農業振興費

【Q】高場委員
農業振興地域整備計画の見直しの内容は。

【A】寺崎経済課長
各農業者から意向を聞き、農用地の区分を見直した。

【商工費】

○商工振興費

【Q】高場委員
特産品づくりの機運の醸成は。

【A】寺崎経済課長
加工センター利用時に指導、助言を行っている。

【土木費】

○住宅管理費

【Q】三谷委員
村営住宅耐力度調査の結果は。

【A】長谷川主任技師
改修の価値があるとい

う判断基準の調査で豊岬台第2団地1号1棟4戸を調査し、現在改修工事を行っている。

【消 防 費】

○災害対策費

【Q】齊藤副委員長
防災用備品の購入品は。

【A】佐藤企画振興室長
ポータブル電源1台とそれを充電するソーラーパネル1台。

【Q】高場委員
自主防災組織のカバー率は。

【A】佐藤企画振興室長
全17自治会中11自治会、85.9%。

【Q】齊藤副委員長
消費期限を迎える非常食の処分方法は、また有効活用しては。

【A】佐藤企画振興室長
自主防災組織の訓練、婦人会の催し時に活用し、作り方等の指導を行っている。

【歳 入】

○土木使用料

【Q】齊藤副委員長
滞納繰越住宅使用料の状況は。

【A】寺崎経済課長
2件あり現在納入中である。

【総 括】

【Q】高場委員
冬野菜栽培の施策を進めるための課題、農業委員会からの意見書案に対する支援は。

【A】宮本村長

冬野菜は、一つずつ課題が解決され農業者に広がるかたちができれば、またもつと利活用される方法を考えたい、村は農業漁業基幹産業が柱として発展してきた、担い手対策含め1次産業の振興に努めたい。

★議長所感

冒頭の副村長から村の財政の状況説明があったと思いますが、実質公債比率7.2%若干の微増ではあります、健全財政を維持しておるということとは理事者のしつかりとした財政意識の高まりであるとうと敬意を表するところであります。また今回、荒木代表監査委員さんから監査の意見書があったわけでございますが、例年であれば私の記憶では常に未収金が累積化しているという、徴収努力をさ

らにするようにという発言がございましたが今回はそのようなこともなく、職員の努力によって未収金が減少しているということもございましたのでこれは大変立派なことだと思っております。特に私は政策的な予算、令和5年度はやはり民間賃貸住宅への4千万の村の補助金、これが非常に大切なものだろうと思えます。この補助金によって若者の住む近代的な住宅が豊岬に建ちました。そして今年もさらに初山別地区に住宅が建つ予定でございます。そこに多くの若者が入ってそして各事業所がこの若者の雇用につながり、そしてそれが村の活性化につながっていくようなことを切に願っているわけでございます。特に家賃等、高ければさらに村も一段新たな政策を実行するということも大切なことかなと思っております。とにかく、働き手が初山別に1人でも2人でも増えて、そして高齢者と相見えてより良い村づくりができるように切に願うところです。以上でございます。

村内主要事業等を調査

総務経済常任委員会（長谷川幸廣委員長）は、10月11日に本年度予算に計上された主な事業の実施状況についての現地調査を行い、検討の結果をとりまとめ村に提出しました。

主な調査場所と検討結果は次のとおりです。

①旧有明小学校グラウンド遊具設置事業

・施工状況及び現況確認

金額922千円

【所見】

適正な維持管理及び有効に活用されるよう設置の周知を望む。



②みさき台公園等遊具設置整備事業

・改修部分及び現況確認

金額18,084千円

【所見】

適正な維持管理及び有効に活用されるよう設置の周知を望む。



③登駒内橋外1補修工事実施設計業務

・現況確認

金額13,920千円

【所見】

利用者が快適に活用できるよう早期の改修を望む。



④高齢者生活福祉センター改修事業

・施工状況及び現況確認

金額247,530千円

【所見】

利用者が快適に利用できるよう、今後とも適正な施設の維持管理を望む。



※事務調査 ・民間賃貸住宅補助事業について

所管する経済課より経過等について説明を受け、質疑を行った。



・地域公共交通対策事業（しよさまる号）について

所管する住民課より現状についての説明を受け、質疑を行った。



議会広報 研修会

去る8月20日、札幌市で北海道町村議会議長会議会広報研修会が開催されました。「読者に読まれる議会報の企画と編集」と題した自治体広報アドバイザー金井茂樹氏の講演でした。その中で議会報は、古くは静岡市など一部の議会が発行した会議録だった事。議会に関心が無ければ読んで貰えない事等を挙げ、読者を増やす為に企画で何を伝え何を伝えるか、いけば良いのかを、議会の広報広聴活動・議会報の課題・議会報の何を変えるのか・メディアの役割と戦略的広報の4つの分野に分けて丁寧話されました。



留萌管内町村
議会議員研修会

去る8月28日、増毛町で行われま
した。

冒頭、来賓の上原和信留萌振興局長
は、道としても、人口減少対策が最
重要課題だと述べられました。

拝聴した講演は、北海道大学公共
政策大学院教授山崎幹根氏による
「人口減少時代の地方自治体の課題
と展望」です。

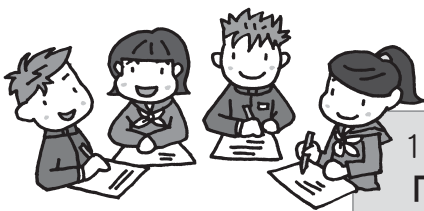
全市町村に行ったアンケート調査
で見えてきた現状は、全道自治体で、
ほとんどの分野にわたり職員不足が
顕著であり、人口減少問題に対応す
る姿勢に差異が見られ、自治体運営
能力の二極化が進行しているとのこ
と。

国は戦後から、政策目的を実現さ
せるための手
法として、
様々な広域連
携を奨励して
きたが、具体
的な好事例を
通して「現状
維持志向」と
は別の選択肢
を持てるか？
学ばせてい
ただきました。



議 会 の う ご き

8 月		9 月	
1	初山別村寿スポーツ（議長外議員多数）	9	例月出納検査（監査委員）
8	例月出納検査（監査委員）	10	初山別村敬老会（議長外全議員）
15	初山別村戦没者追悼式（議長外議員多数）	11・12	第3回定例会（議長外全議員）
20	議会広報研修会 （三谷副委員長、高場委員・札幌市）		決算審査特別委員会 （委員長外委員全員及び議長）
28	留萌管内町村議会議員研修会 （議長外議員多数・増毛町）	10 月	
29	議会運営委員会 （委員長外委員全員及び議長）	10	例月出納検査（監査委員）
	議会全員協議会（議長外全議員）	11	総務経済常任委員会所管事務調査 （委員長外委員全員及び議長）
		15	議会報発行特別委員会 （委員長外委員全員）



11月18日午前10時より、初山別中学校3年生による
「子ども議会」が行われますので、是非傍聴にお越しください。

編集後記

お盆が過ぎた頃から我が家の食卓から、お米が消えた。友人から警告されていたのに、備蓄米で調整されるだろうと考え対処しなかった自己責任と諦め、お米のない生活を体験した令和の米騒動。タイ米で急場を凌いだ平成の米騒動とは似ている様で何かが違う。

誰かが気候変動やウクライナ・イスラエルの戦争が激化している現状を「世界は今、嵐の中にある」と言っていた。現地にいる人達は皆大変な思いをしているだろう。

そして今、平和を願う私達の上に北朝鮮のミサイルが発射されたとしても、身を隠す安全な場所など何処にも無い。

（文責・三谷 博子）

議会報発行
特別委員会

- 委員長 齊藤 勝博
- 副委員長 三谷 博子
- 委員 高場志津子
- 委員 加藤 一裕